

令和5年度 福寿荘事業報告

1. 概要

・知的障害者を受入れ、安全で健康かつ安定した生活を保障する中で、一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、個別支援計画に基づき適切な支援・援助を行った。また、社会生活(地域生活)に必要な知識技能、態度の習得に努め、豊かな人間性を養い、成長向上をはかり、社会的自立をめざした。

・新型コロナウイルス感染症の5類移行後も引き続き感染防止に取り組み、手指消毒等に努め、食堂利用や活動にあたっては「3密」を回避し実施した。しかしながら、施設内感染が発生したことから、「感染症対策委員会」により感染発生時の対応を行い、「感染時における事業継続計画」により運営継続を講じた。

・適切な支援の取り組みとして、「虐待防止のための指針」及び「身体拘束適正化のための指針」を定め、虐待防止委員会や身体拘束適正化検討委員会により虐待防止等に努めた。

2. 施設運営

(1) 職員構成(令和6年3月31日現在) ()…非常勤職員別掲

荘長	サビ管	事務員	支援員	看護師	栄養士	嘱託医	計
1	1	2 (兼務)	12 (3)	1	1	(1)	18 (4)

(2) 会議

会議名	内 容	実施日	構 成
運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営全般について連絡・協議 年間計画、方針の調整 体制全般に関する連絡調整、問題解決 	随 時	荘長、課長
全体会議	業務及び支援全般に関わる検討協議	毎月1回 第3木曜 日	全職員
支援会議 虐待防止委 員会・身体拘	<ul style="list-style-type: none"> 各班の連絡調整 支援内容の相互確認・検討・進展 入所者の福祉向上と人権擁護の促進 職員相互の資質の向上と各班間の連携 	毎月1回	支援課長、医務、 各班チーフ、GH世話人 栄養士

東適正化検討委員会 感染症対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人権擁護に基づく支援及び職員への研修 ・身体拘束に関する適正化の推進及び職員への研修 ・施設における感染防止策の検討 ・新型コロナウイルス感染症対策関係 	3回 1回	荘長、関係職員
班会議	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容、個別方針の検討・作成 ・入所者の環境整備と処遇向上の進展 ・職員相互の資質の向上と職員間の調整及び協力体制の進展 ・ケース会議(個別支援計画関係) 	毎月1回	各班担当職員
給食会議	入所者の給食に関する必要事項の検討・協議	3ヶ月に1回	給食係長はじめ関係職員、利用者
行事会議	行事の企画・立案	随時	各行事担当

(3) 職員研修

月	研修内容	主催	開催	職種	
5	自閉症スペクトラム症障害者支援者入門研修	国立障害者リハセン秩父学園	オンライン	支援員	
6	令和5年度名古屋市強度行動障害者支援者養成研修(基礎研修)	名古屋市	名古屋市中小企業振興会館	支援員	
7	成年後見人研修	県知的障害児者生活サポート協会	保安ホール	事務員	
	感染症対策研修 強度行動障害者の特性と支援研修	名古屋市社会福祉協議会 川崎医療福祉大学	オンライン	支援員 支援員	
8	権利擁護研修 令和5年度虐待防止研修	名古屋市社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会	オンライン 愛知県社会福祉協議会	支援員 支援員	
	名古屋市強度行動障害者支援者養成研修(実践研修)	名古屋市	名古屋市中小企業復興会館	支援員	
9	強度行動障害研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	支援員	
	障害者支援部会管理栄養士研修	県知的障害者福祉協会	オンライン	栄養士	
	障害福祉制度研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	支援員	
10	障害者の福祉的就労と日中活動サービスの支援のあり方研修	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園	オンライン	支援員	
	感染症対策研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	支援員	
	自立課題のアセスメントから制作・再構造化を学ぶ研修	TEACCHプログラム研究会	ウインクあいち	支援員	

11	会計基礎研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	事務員
	薬学基礎研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	看護師
	ターミナルケア研修	名古屋市社会福祉協議会	名古屋市総合 社会福祉会館	事務員
	令和5年度サービス管理責任者研修 (更新研修)	名古屋市	名古屋銀行協会	支援員
	労務管理研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	事務員
	地域共生社会研修	名古屋市社会福祉協議会	オンライン	支援員
3	川崎医療福祉大学 TEACCHトピックセミナー	川崎医療福祉大学	オンライン	支援員

3 利用者状況

(1) 入退所〈生活介護 定員50名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
退所	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
在籍	38	37	37	38	38	37	37	37	37	38	38	38

〈施設入所支援 定員40名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0
退所	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
在籍	37	36	36	37	37	36	36	37	37	38	38	38

(2) 入所期間別(38人)

令和6年3月31日現在

	1年未満	1～3年未 満	3～5年未 満	5～7年未 満	7～10年未 満	10年以上
男	2	2	0	0	1	17
女	2	0	1	1	2	10
合計	4	2	1	1	3	27

(3) 年齢別(生活介護 38人)

令和6年3月31日現在

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳 ～	合計	平均
男	0	2	0	4	10	5	1	22	50.2
女	0	3	1	3	6	3	0	16	48.0
合計	0	5	1	7	16	8	1	38	49.1

最高年齢…71歳(男性) 最少年齢…22歳(女性)

(4)障害別(生活介護38人)

令和6年3月31日現在

障害名	知的障がい	てんかん	ダウン症候群	自閉症	精神障害			
					統合失調症	心因性妄想	適応障害	てんかん性精神不安
男	22	9	1	7	1	0	0	0
女	16	4	2	4	2	1	1	0
合計	38	13	3	11	3	1	1	0

障害名	身体機能障害				
	聴力障害	言語障害	嚥下機能障害	体幹機能障害	視力障害
男	0	0	0	2	2
女	2	2	0	1	1
合計	2	2	0	3	3

(5)障害程度区分(生活介護38人)

令和6年3月31日現在

区分	「3」	「4」	「5」	「6」
男	0人	6	6	10
女	0人	2	8	6
計	0人	8	14	16

4. 支援内容

<1 班>利用者18名

- ・重度知的障害、行動障害の利用者を中心とし、木工棟で活動を行なう。重点的に利用者個々に合わせた自立課題の提供とスケジュールなどの視覚支援の充実、個別空間の充実を図った。自立課題では、個々に合わせた提供をしながら前期と後期と各利用者の進捗状況に合わせて2回入れ替えを行い利用者の作業能力向上に努めた。
- ・生活場面では居住空間の見直し、視覚支援を行い、活動、生活場面と連動しながらの支援を行う。また、生活場面では新型コロナウイルス感染後から誤嚥性肺炎になりやすい利用者が数名見られたことから誤嚥性肺炎防止の為、看護師や栄養士と共に食事支援について工夫を図った。また、これまで新型コロナウイルスの5類移行に伴い社会経験活動を再開し、近隣地域の美容院や店を利用しながら社会経験を積んでもらうと同時に改めて施設への地域の理解の促進につなげる。

<2 班>利用者23名(A班8名 B班15名)

- A班 ・高齢、歩行困難者など身体的な支援が必要な利用者からなり、身体機能維持を目的に訪問リハビリの利用、作業や課題、散歩、食事の提供の工夫等を行った。認知症予防のため生活の中で場面を換え気持ちに刺激を与え張り合いが持てるようにした。

- ・小行事の際の材料(七夕の短冊)作り、行事を題材としたちぎり絵の作品を全員で制作した。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い感染対策を講じながらドライブスルー、コンビニへの買い物、床屋での散髪等を行ない、外出に少しずつ慣らしながら楽しんでもらえるよう外出余暇活動を再開した。
- ・班所属の高齢者3名退所。

B班

- ・知的障害・精神障害・自閉症等様々な利用者からなり、外注作業・自立課題・洗濯物の仕分け作業・施設内の清掃活動などに取り組んだ。
- ・意思表示を目的とし一部の利用者に対して SST(ソーシャルスキルトレーニング)を定期的に行った。
- ・余暇活動では A 班同様新型コロナウイルス対策として外出余暇活動を控えていたが、5類に移行したため感染対策を講じながら生活の中での張り合いとなるようドライブスルー、コンビニやドラッグストア・スーパーなどで久々の外出を行い、また買い物の仕方、店での行動等について確認しながら地域との関りを持てるよう、取り組みを再開した。

5. 文化・余暇活動

利用者一人ひとりが自分の趣味趣向を有意義に発揮できる場を提供し、自己表現できるように支援した。また、サークル活動や自治会活動を取り入れ、本人にとって楽しく生き甲斐となるよう自分の発想を展開していける力を発揮できるように支援した。

(1)利用者自治会

- 〈総 会〉役員会で議題を提示し全体で討議した。利用者から出された意見を基に生活の中に反映させた。
- 〈誕生会〉毎月1回、利用者全員及び職員で誕生者を祝う会を実施した。
- 〈奉仕活動〉毎月1回、自主的活動として施設内の環境整備を行なった。
- 〈喫茶活動〉新型コロナウイルスの感染防止のため利用者主催の飲食の活動は自粛していたが、1月17日に鏡開きを通して自治会役員を中心とした喫茶形式の催しを実施し、次年度に向けて新たな自治会喫茶の開催方法を模索した。
- 〈その他〉役員は利用者代表として責任を持ち施設生活を送る上で役割を分担して行った。

(2)サークル活動

今年度は実施しなかったが、全員参加のもと文化活動として、11月に移動動物園を招き、小動物や馬などの動物と触れ合う機会を作った。

(3)その他

利用者からの要望に対し適時必要な支援を行なった。

6. 行 事

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、感染症対策を行い、保護者の参加ができるよう検討しながら企画した。

〈大行事〉

実施日	内容	実施状況
6月26日(月) 6月27日(火) 6月29日(木)	外出行事	昼食外出(木曾路)を利用者少人数に分け実施。コロナ禍、数年ぶりの外食となり、楽しんで食事することができた。
7月29日(土)	夏祭り	福寿荘にて、ゲームの夜店や焼きそばなどの屋台を設け、風鈴などの装飾を使用した。また、キッチンカーによりジェラートを食べた。抽選会やグラウンドでの花火を行い、夏の風物詩を楽しんだ。
10月14日(土)	運動会	福寿荘グラウンドで徒競走、や障害物競走、パン食い競争、フラフープを使用した競技を行い楽しんだ。また、コロナ禍で控えていた保護者参加を実施する。
12月9日(土)	クリスマス会	保護者参加で行なう予定であったが、コロナ感染症発生のため利用者だけの参加で実施。 講堂にて、パーティー食を取り、スライドショー、職員アトラクションを実施。プレゼント配布や抽選、ケーキなど一年の締めくくりの行事として楽しんだ。

〈小行事〉

実施日	内容	実施状況
4月初旬	花見	昼食やおやつを楽しみながら実施
7月初旬	七夕	短冊に願い事を書いて笹へ飾った。
9月1日(木)	炊き出し訓練	災害時の避難所を想定し、非常食体験

7. 地域交流及びボランティア・実習生の受け入れ

- ・新型コロナウイルスの感染防止の為、地域との交流は自粛。また、行事縮小によりボランティアの受け入れは行わなかった。
- ・実習について、社会福祉士実習(8日間)2名、保育実習(10日間)4名の計6名を受入れた。

8. 給食

- ・調理業務については、委託業者との連絡・調整に努め、利用者の嗜好等を考慮し適正な栄養の確保と共に盛り付けや味付け等、十分に配慮した。また、食品衛生にも細心の注意を払った。また誤嚥性肺炎防止に取り組み食事支援を行った。

・新型コロナウイルス感染症感染防止のため、食堂利用時の人数を半数とするなどの対策をとり、密な状態を解消し感染防止に努めた。

(1) わくわくランチ(毎月1回)、選択メニュー(毎月1回以上)

・バイキング方式などのメニューを積極的に取り入れ、自らの選んだものを食べるという自己決定の機会を増やすと共にマナーの練習を行い、継続して「楽しい食事」を提供した。

(2) 治療食

肥満食、刻み食に加え、疾病の状況に応じた献立を取り入れ健康面の配慮を行なった。

(3) 栄養指標

① 栄養摂取目標値

エネルギー	タンパク質	脂肪	Ca	Fe	VA	VB1	VB2	VC
1950	60	49	660	9	780	1.1	1.2	110
kcal	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg

② 栄養摂取状況

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	Ca (mg)	Fe(mg)	ビタミン			
							VA (μg)	VB1 (mg)	VB2 (mg)	VC (mg)
4月	1953	74.2	54.0	276.1	715	13.4	668	2.22	1.25	115
5月	1942	72.1	52.8	277.6	663	12.8	691	2.27	1.19	120
6月	1938	74.4	50.5	279.5	690	13.0	651	2.40	1.23	110
7月	1891	69.6	50.7	273.0	684	12.8	680	2.25	1.20	112
8月	1922	71.3	53.6	276.7	674	12.9	645	2.29	1.20	113
9月	1923	72.8	49.3	279.9	671	12.9	643	2.36	1.18	108
10月	1924	74.3	53.8	273.8	631	12.9	631	2.25	1.22	110
11月	1899	71.5	48.7	277.3	684	2.91	689	2.27	1.22	104
12月	1940	73.3	53.0	275.4	658	12.7	706	2.28	1.22	119
1月	1935	73.6	52.3	275.6	696	12.0	654	2.24	1.21	114
2月	1928	73.1	50.7	278.2	684	12.6	690	2.32	1.23	110
3月	1968	73.9	53.0	280.9	692	13.7	673	2.47	1.23	123
平均	1930	72.8	51.5	277.0	683	12.9	668	2.30	1.22	113

③ 食品群別摂取目標

穀類	いも類	砂糖	油脂	豆類	魚介類	肉類
305	50	13	17	65	65	55
卵類	乳類	緑黄色野菜	果実類	淡色野菜	海藻	
40	200	120	100	230	6	

④ 栄養摂取状況

	穀類 (g)	芋類 (g)	砂糖 (g)	油脂 (g)	豆類 (g)	魚介 類(g)	肉類 (g)	卵類 (g)	乳類 (g)	緑黄 色野 菜(g)	淡色 野菜 (g)	果実 類(g)	海藻 (g)
4月	303.8	52.1	8.1	21.5	65.8	76.3	78.7	24.4	129.8	139.6	209.9	58.0	3.1
5月	301.2	56.4	8.9	19.2	69.6	84.0	71.1	27.2	113.4	135.0	210.4	59.7	4.2
6月	289.9	49.8	8.6	18.8	63.9	79.1	73.9	29.6	118.9	148.3	201.1	57.7	2.5
7月	296.1	41.8	8.2	19.8	74.9	78.6	69.6	30.8	119.3	140.3	185.7	56.3	4.0
8月	307.1	55.8	9.8	20.9	70.3	74.0	77.7	31.6	118.0	142.2	209.0	59.9	4.4
9月	299.6	38.2	8.6	20.0	64.3	85.8	70.8	29.1	129.9	150.3	210.0	56.2	5.2
10月	309.7	45.4	9.1	17.7	60.7	86.0	75.0	31.2	121.1	137.5	200.7	54.4	4.2
11月	309.5	47.1	8.6	17.4	82.2	84.6	66.1	24.6	122.9	133.7	209.2	52.2	5.3
12月	301.0	47.3	7.5	20.5	60.1	78.8	77.1	41.2	126.5	140.4	199.0	57.1	5.9
1月	297.4	54.9	9.5	17.7	66.7	85.0	72.9	29.0	128.6	131.1	216.6	67.7	3.5
2月	288.9	45.6	7.4	20.2	72.9	72.1	76.0	32.3	131.3	129.6	219.3	53.8	4.8
3月	301.2	41.7	9.1	19.0	58.6	73.8	72.6	34.7	118.5	132.5	214.9	61.9	5.7
平均	300.5	48.0	8.6	19.4	63.1	79.8	73.5	30.5	123.2	138.4	207.2	57.9	4.4

9. 保健衛生管理

年間検診等実施状況

月	検診等内容	利用者	職員
4	歯科検診（～3月）	入所者	—
5	職員特定・利用者定期健康診断	入所者・通所者	夜勤者
6	耳鼻科検診	入所者	—
8	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種	入所者	任意
9	眼科検診	入所者	—
10	インフルエンザ予防接種	入所者	任意
12	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種 5回目	入所者	任意
2	職員・利用者定期健康診断	入所者	全員
毎月第4木曜日 嘱託医回診			

10. 短期入所事業・日中一時受入事業

居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、宿泊による短期入所を必要とする障害者の方の支援を行った。また、日帰りの支援を希望する障害者の方については、日中一時事業により受け入れを行った。定員4名、延べ利用日数 435 日。

（短期入所事業利用実績）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	2	3	3	1	1	2	2	2	2	2	2	2	24人
	30	30	38	2	6	15	11	13	18	16	24	24	227日
女性	0	1	2	1	2	1	1	1	0	1	1	0	11人
	0	23	32	30	33	20	5	4	0	4	4	0	155日
合計	2	3	5	1	3	3	3	3	2	3	3	2	34人
	30	53	70	32	39	35	16	17	18	20	28	24	382日

(上段:実人数、下段:利用日数)

(日中一時受入事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12人
	5	6	4	1	2	5	3	6	5	5	5	6	53日
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12人
	5	6	4	1	2	5	3	6	5	5	5	6	53日

(上段:実人数、下段:利用日数)

11. 地域生活支援活動 (グループホーム)

年間を通じ、新型コロナウイルス感染症感染防止に留意し、病気による静養、通院等、緊急対応を行ない、地域生活者の心身の健康維持に努めた。

12. 防火・防災管理

火災・地震等の災害対策については、入所者の安全を最優先とし、特に大規模災害を想定した防災体制の強化を計った。更に、各職員の責任分担を明確にした上、年間計画に基づく各種場面(日中及び夜間)を想定した防災訓練を行った。

<防災訓練実施状況>

月	訓練教育等種別	実施内容
5	職員 防災教育	防災設備・機器の取扱、防火・防災計画の説明及び指導
6	通報・連絡 火災発生想定避難訓練	30日 火災想定
	地震発生想定避難訓練	5日 大規模地震発生想定
9	炊き出し訓練	6日 大規模地震発生想定
	消防用設備点検	28日 総合点検
11	職員 防災教育	防災設備・機器の取扱いや、防火・防災計画の説明及指
12	通報・連絡・初期消火 火災想定避難訓練	27日 夜間火災想定
	地震発生想定避難訓練	23日、27日 大規模地震想定
3	消防用設備点検	25日 機器点検実施